



遠藤れい子ひまわりレポート

○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3-1-3
☎ 0258-32-1741 fax 32-6443



原発再稼働ストップ

柏崎刈羽原発どうする？花角知事の検証総括委員会を開かない“まとめ”不十分！ 今こそ、県民の声を集めて避難の検証を！

原発なくても電気は十分足りている！

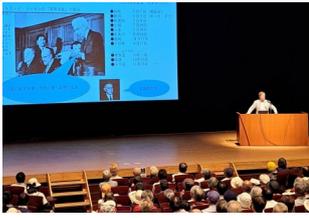
「なくして原発2023柏崎大集会」で、講演した元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章さんは、「原発はなくとも、日本の電気は足りている。原発は直ちに廃炉にすべき」と、資料を提示しました。



9/24広島と長崎に落とされた原爆を示し講演する小出裕章氏

**地震・津波で事故発生
の時に、ほんとに避難できるのか？**

県の避難委員会委員だった新潟国際情報大学の佐々木寛教授は、「県の三つの検証委員会は福島第一原発事故の検証を行い、柏崎刈羽原発
ではどう
対応する
かを検証
すること
であった。



9/24「3つの検証委員会」について報告する佐々木寛氏

避難検証委員会は400項目を超える避難のための具体的課題を明らかにした。その検証はこれからである。

原発事故が発生したとき、新潟県民は本当に安全に避難できるのか。それは検証総括委員会で行い、県民に示すことであった。ところが、花角知事は検証総括委員会を解散し、県職員でまとめた。不十分なまとめで済まし、再稼働への議論をするなどは許せない。

**ふるさとに帰れない人は
今でも3万人を超える！**

東電福島第一原発の事故から12年。被害を受けた福島県の人口は震災前より25万5千人減少し、176万8千593人。8月1日現在の県内避難者は2万704人、県外避難者6千99人となっている。(福島復興ポータルサイト)



海を汚すなと大型プラカードを掲げ

津南町を良くするために

10月17日告示、22日投票

票で津南町議会議員選挙が行われます。私は実家に里帰りして、予定候補者の方と一緒に地域を回り、皆さんのお話を伺いました。

●高温障害で、津南の米も品質は落ちている。

●津南病院を守ってもらいたい。高齢者は病院が近くにないと生きていけない。タクシーで十日町までは行けない。

●高齢になり自動車を手放すとしても不便。病院や買い物に利用できるデマンドタクシーなどを取り組んでもらいたい。

●相撲の土俵俵を編んでいる方からは、今年は藁の背丈が短く俵が編みづらい。沸騰する地球が相撲にも影響しているの知りビックリしました。

遠藤れい子の 笑顔でファイト

高齢人口44%
百歳は41人
1980年1万
3千841人の

津南町は私のふるさと

人口は今年の8月末で8千743人となり、5千988人減少しました。年齢構成は、14歳までの若年者人口は810人(総人口比9%)、15歳から64歳までの生産年齢人口4千118人(47%)、65歳以上の高齢者人口は3千815人(44%)です。うち、百歳を超える人は41人いらっしゃいます。
安心して暮らし続けられる津南町に！

今回の町議会議員選挙で、議員定数は14人から12人に減ります。その中で日本共産党は、高齢になっても安心して暮らし続けられる津南町をつくるために、地域の皆さんの要求をもとに頑張っています。皆さんの声をぜひお寄せください。

